

## <麦類の栽培ポイント>

今年も麦類の播種時期になりました。湿害対策等の基本技術を徹底し、高品質麦の生産に取り組みましょう。大麦は昨年よりニューサチホゴールドの作付けとなりました。適切な栽培管理を行い高品質の麦生産を目指しましょう。

### 1 適期播種と生育管理

年内の生育を十分に確保し、高品質麦の安定生産を図るため適期に播種しましょう。遅まきは、細麦・被害粒の発生が懸念されます。

#### 【播種期間の目安】

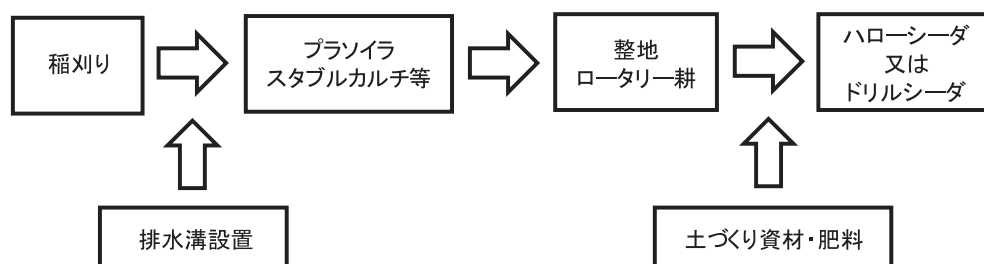
**小麦：11月10日～11月20日**

**二条大麦：11月15日～11月25日**

**二条裸麦：10月30日～11月15日**

※ 気温が高い予報の時は5日程度遅らせ、低い予報の時は5日程度早めましょう。

#### 【圃場準備～播種までの流れ】



#### 【小麦の施肥】

近年、小麦は低タンパク傾向が続いています。基準施肥量(窒素成分10kg～11kg/10a)を参考に、令和元年産の成績に応じた施肥設計をしましょう。

基肥には肥効調整型肥料(BB麦専用麦の香、BBとちぎ麦専用500)を施用しましょう。

オール14やBB-372などの即効性成分のみの基肥を施用した場合は、生育状況に応じて茎立ち期直前か穂揃い期の追肥を検討しましょう。

### 2 湿害対策の徹底

麦は播種期・生育期・登熟期の全栽培期間を通して湿害を受けやすい作物です。湿害防止のために以下の対策を組み合わせる実施しましょう。

- (1) 稲刈り後の弾丸暗渠による早期の排水対策。
- (2) プラソイラやスタブルカルチを活用した心土破碎。

### 3 麦踏み

年内1～2回、年明け後から茎立ち期直前までに2回程度実施しましょう。

根張りを良くすることや、霜などによる凍上害防止の効果があります。また、雨上がり直後や土壌水分が高いときは、圃場を踏み固めてしまい生育不良を招くので行わないようにしましょう。

(裏面あり)

#### 4 雑草防除

雑草の発生を抑制するため、播種後に除草剤の全面土壌処理を行います。

雑草の種類	除草剤名	使用時期
一年生雑草	ボクサー（乳剤）	播種後～麦2葉期まで 但し、小麦は麦4葉期まで （雑草発生前～雑草発生始期）
	リベレーターフロアブル	播種後～麦3葉期まで （雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで）
	リベレーターG(粒剤)	播種後～麦2葉期まで （雑草発生前～イネ科雑草1葉期まで）
	ムギレンジャー乳剤	播種後～出芽前（雑草発生前）
	クリアターン乳剤・細粒剤F	播種直後（雑草発生前）
一年生雑草 （ツユクサ、カツリガサ、キ、アブ シ科を除く）	トレファノサイド乳剤	播種後出芽前または生育期（収穫 45日前まで） 雑草発生前に散布。

※ボクサー・リベレーターフロアブル・G(粒剤)・ムギレンジャー乳剤は抵抗性スズメノテッポウに効果を発揮します。

※抵抗性雑草の発生を回避するため、土壌処理剤はローテーションで使用しましょう。

※除草剤（農薬）を使用する時は、ラベルの表示を確認して正しく使用してください。

#### 5 種子消毒の実施

大麦斑葉病やなまぐさ黒穂病といった種子伝染性病害が増加傾向にあります。

発病後の薬剤による防除は困難です。種子消毒で予防し、健全な麦の生産に努めましょう。

●種子消毒のポイント

大麦斑葉病への種子消毒剤は処理方法により効果が変わり、一般的に

**浸漬処理＞湿粉衣処理＞乾粉衣処理**

の順で効果が高いとされます。

麦類種子消毒剤の主な適用一覧（令和元年10月22日現在）

農薬名	病害名		処理方法
	斑葉病	なまぐさ黒穂病	
トリフミン水和剤	○	○	種子粉衣
ベンレートTコート	○	○	種子粉衣
ベンレートT水和剤 20	○	○	10～20 分間種子浸漬、種子粉衣
ベフラン液剤 25(劇)	○（小麦を除く）	○（小麦を除く）	種子吹き付け処理又は塗抹処理
	○（小麦を除く）	○（小麦を除く）	10～30 分間種子浸漬

※機械播きには種子粉衣または、短時間浸漬で処理します。

※農薬を使用する時は、ラベルの表示を確認して正しく使用してください。